

令和7年度第2回秋葉山再生連絡会議 会議録(要旨)

●日時: 令和7年7月30日(水)午後1時25分～2時40分

●場所: 南陽市役所4階大会議室

●出席者16人 ・山形大学 ・林野庁置賜森林管理署 ・米沢地方森林組合
・山形県置賜総合支庁: 森林整備課、河川砂防課
・南陽市: 総合防災課、建設課、商工観光課、財政課、農林課

●欠席者 ・山形県置賜総合支庁環境課

1開会(13:25)

進行:南陽市農林課長補佐

2挨拶 農林課長

本日は、山形大学農学部名誉教授からドローン撮影の解析をいただき、上層火災の状況等について説明いただくので、今後の森林再生に活かしていきたい。

全層、上層火災の再造林については、市として山荘跡地周辺の1haは植樹祭実施エリア、森林組合が農林中金森力を活用し2力年に渡り再生するエリア、そして、南斜面の地権者や国、県、市共同による造林検討エリアについては、7月17日付けで市から県に対して保安林の要望書を提出。公的なお力をいただきながら分収造林による再造林を目指す。

昨年度、協議いただいた課題をひとつひとつ検討し課題整理し進めていく最もよい再生方法になるよう皆さんからのご意見をいただきたい。

3協議 座長:農林課長

①秋葉山林野火災災害地のGIS再解析について(山形大学農学部名誉教授)

- ・今年5月に撮影したドローン画像の解析の結果、上層焼失については大きな変化はなく約30ha、全層焼失については、上層焼失の内数ですが、立木の枯死の確定により、約1.1haから約2.7haに拡大している。
- ・上層焼失の範囲は、今後、樹木の繁茂が進むことで縮小することは考えられるが、火災から1年が経過しており、枯死範囲が拡大することは考えにくいいため、上層焼失の最大範囲は今回の調査で確定と考えられる。

②秋葉山の林野火災に対するコメント(令和7年度南陽「草木の森」夏季イベント研修会)

- ・令和7年6月26日に研修会の講師として現地確認を実施した際の意見を取りまとめたもので、「整備のあり方」「モニタリングや今後の方向性について」「感想」「関心を持ったこと」「防災対策」について、今後の森林再生に役立つヒントが多くあるため紹介いただく。
- ・今回は企業のCSR活動の意見だが、登山者や市民などいろいろな意見を持っているので集約を勧めたい。
- ・紙芝居的なもので誰でも秋葉山を紹介できるものがあったらいいのでは。

③秋葉山林野火災復興植樹について(南陽市農林課)

日 時: 令和7年10月29日(水)9時30分～正午(受付9時～)

場 所: (開会行事)向山公園南駐車場、(植樹)秋葉山山荘跡地周辺

参 加 者: 200名程度

植樹本数: 約1,000本(樹種:ヤマザクラ、ヤマモミジ、ツツジ、イチョウ各250本、少花粉スギ10本)

主催: 南陽市、公益財団法人イオン環境財団 共催: フコク物産株式会社 協力: 米沢地方森林組合

・植栽方法については、4種混植の考えもあるが、植栽後の管理や樹種毎による成育や眺望等の関係から、ヤマモミジ、ツツジ、イチョウについては区画を設定しての植栽、ヤマザクラについては混植を予定。

・焼損木を活用した記念品として、コースターと鍋敷きは参加者に配布予定。また、ベンチや椅子等については、学校等の公共施設で使用いただき、山火事の恐ろしさや森林資源の大切さ等について、市民の心を通じて後世に伝わる活動を考えていきたい。

◆山形大学農学部名誉教授

・樹種の選定について、ヤマザクラ、ツツジ、ヤマモミジは支障ない。植栽方法も混植でもまとめ植でも自然現象にはどちらもあるので差支えない。イチョウは中国産の外来樹種で潜在植生ではなく、銀杏がなると臭いもあり合わないのではと思ったが、宮内地区を代表する木で、熊野大社の大イチョウを崇めており、学校や地区などで商標として使用されている。また、イチョウは火に強く、春の新芽や秋の紅葉がきれい。熊野大社のイチョウと連携も期待できる。

4意見交換 座長:農林課長

◆置賜森林管理署(署長からのメッセージ代読)

- ・昨年の火災発生から1年が経過し、森林再生に向け着実に進んでおり、山形大学農学部名誉教授をはじめ、置賜総合支庁、米沢地方森林組合の協力に対し深く感謝。特に南陽市においては、山火事の発生以降、各種調査や修繕、住民への説明や情報発信、再生連絡会議の開催などのご努力に敬意を表する。この取組みは今後の参考として大変貴重なデータになるので、引き続き会議等を通じて、記録、発信していただきたい。
- ・今後の防災の取組について、受入団体を発足させていただき、緑の羽根募金の活用を検討いただきたい。

◆置賜総合支庁森林整備課

- ・秋葉山の復興植樹について、花木等を植栽し市民の集う場所を整備していくことは素晴らしい取組。
- ・7月に現地調査を実施、雑草等の草木が生えてき来ており、緑を活かした整備をお願いしたい。

◆置賜総合支庁河川砂防課

- ・警報発令がないため特に内原沢の点検は実施していないが、7月10日に置賜管内で米沢市、川西町、西置においては、飯豊町で1時間に100ミリの記録的短時間大雨情報が発令されている状況。
- 河川砂防課として、雨が少ない渇水、高温なので熱中症対策により工事も中々進まない状況。今後とも局地的な大雨が全国的にも多発しており、今後も大雨警報時等の経過観察は続け情報提供していく。

◆米沢地方森林組合

- ・植栽予定地の伐採搬出業務を実施した。
- ・昨年度申請していた農林中金の森力基金事業の採択を受け、今年度はソフト事業として、ドローンを使った現地調査や所有者の境界明確化の事業実施に向け進めている。また、6月にはハード事業である伐倒の申請を行ったところである。

◆山形大学農学部名誉教授

- ・復興植樹の対象の場所は、GIS地図のID1全体と考えて良いのか。また、どこに4種の植栽は決まっているのか。
- ・積極的に再生するエリアつまり上層焼損、焼失した森林自体を保存しようとするエリア、景観を重視するエリアはどういうところなのか。ゾーニングが出来る気がしているが聞ききたい。

◆南陽市農林課

- ・植栽予定地は、GIS地図のID1の一部になる。また、ID1の下も植栽エリアになる予定である。植樹対象外や植栽区域のゾーニングについては、今後森林組合と協議していく。

◆米沢地方森林組合

- ・農中森力基金については3つのエリアに区分。焼損木を伐採して後継樹による再生を図る環境林整備エリア、道路の周辺で今後生産林として見込む生産林再生エリア、登山道の周辺において再生を図る公園林エリアとして申請している。また、焼損木を保存するエリアについて今後ゾーニングしていく予定。

◆山形大学農学部名誉教授

- ・農林中金はそんなに甘くないので、ハード事業が2年目で必ず採用される保証はない。農林中金のトップセミナーで、去年今年と採択された団体がどのようなプレゼンをして成果発表するのか良く把握した上で準備したほうが良い。上層焼失、全層焼失の部分と森力のエリア区分が上手く融合しているようなゾーニングをしておくといい。旧山荘跡地の南側を環境林にするのはいいアイデア。

◆南陽市商工観光課

- ・県に要望している焼失したトイレの復旧について、県のみどり自然課から、企業からの寄附をいただき、県の自然公園事業としてトイレを再生するとの報告をいただいた。10月29日の植樹祭までに間に合わせるため、来月から工事に入る予定である。

5その他

6閉会(14:40)